

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を柱とし、ホームでの目標を掲げている。毎月の部会、日々の申し送りの場を通してサービスの向上に繋がられるよう努めている。	複合施設「あい愛塩尻」としての理念、私たちの願い「5つの柱」が基本となっており、自立支援、地域交流などの願いに沿ったホーム独自の目標を立てている。その目標である「利用者が役割を感じることができる」「利用者の思いや言葉の傾聴と笑顔のある生活」を目指しケアに当り、日々の申し送り時や部会等で振り返りと確認をしている。理念は食堂の壁にも掲示され、理念にそぐわない言動がある職員に見られた場合には、職員同士で声がけてフォローし合い管理者からも助言をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの小学校の児童や保育園の園児との交流を定期的に行っている。また、市立図書館分館との交流を図り、行事等に参加している。地域の様々なボランティア団体の方々が定期的に来訪し交流している。	複合施設として地元自治会に加入し区費を納め、地域との良好な関係を築いている。5月の地元の祭りでは複合施設敷地内に屋台が出てお囃子の披露もある。近くの保育園児、小学生との交流も年に数回継続してある。ケアガーデンの土起こしやゲートボール場の管理は地区の方々が協力して下さり、結びつきが強い。代々の区長との関係もよく、今年はたくさんの花桃の苗木の差し入れがあり、ガーデンの周囲に植えられている。施設敷地を近くの小学校のイベント時の駐車場として提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に、区長、民生委員に参加いただいている。ご意見交換やホームからの情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	市、地域の代表の方、ご家族、入居者が委員になり、参加して頂いている。会議では運営状況、利用者の様子の報告やスライドショーによるイベントや日常の様子の発信し、ご意見やご助言を頂き、実践に活かしている。	年6回、奇数月の土曜日に開催している。利用者、家族、区長、民生委員、市職員、ホーム職員が参加している。利用者と家族の全員に声をかけし半数近くの方々の参加がある。運営状況の報告やスライドショーを使って利用者の様子を知っていただき、ホームの活動への理解につなげている。質問、要望もその都度出され、検討し、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	3か月に1回介護相談員が来訪し、入居者及び職員との交流が出来ている。市介護保険事業所連絡会に参加し、市や他事業所等と情報共有や意見交換を行っている。	随時、市担当者に連絡・相談をしている。更新時の介護認定調査はホームで家族も同席して行われている。介護保険事業所連絡会やケアマネージャー連絡会に参加して情報交換しながら連携をとっている。介護相談員が3ヶ月に1回来訪しており、顔なじみとなっているので気軽に利用者とは話し、何か気になることがあれば報告がありケアに活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止・介護技術委員会を設置し良質なケアの提供を目指している。外部講師による職員研修を実施し、今日的ケアを学び実践に活かしている。また、日中の玄関の開錠や施設内は自由に出入りや散歩できるよう、解放している。	身体拘束廃止・介護技術委員会で話し合いを重ね、2年前から日中は玄関を開錠し施設内も自由に出入りできるように開放している。外出傾向の強い方への対応については思いを受け止め、玄関前に置かれている手作りベンチで話をしたり一緒に散歩するなど、個別の支援をしている。	

グループホームあい愛塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県が行う研修会に参加し、復命を行っている。また、月例の部会で職員の気づき取り上げて、実践を振り返っている。言葉の虐待等見過ごされないように防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がいるため身近に学ぶ機会がある。県が行う研修会に参加し、復命を行っている。また、市のケアマネ勉強会でテーマに挙げ学習の機会を持ち、ネットワークの構築を図った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書類(利用料、重要事項)の説明を行い同意、理解をいただいている。法改正による料金改正等については、書面にて説明しご理解、承諾を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に、家族全員に通知をし参加していただいている。ご意見等いただき反映させている。	ほとんどの利用者が意見・要望を表出することができ、できない時は職員が話をしながら表情や動作から読み取るようにしている。家族の面会は月2回から3ヶ月に1回あり、その都度、利用者の様子を知らせ意見を聞くようにしている。隔月に開催される運営推進会議には半数近くの家族の参加があり、意見を伺う場ともなっている。会議終了後には利用者と食事を共にして家族の交流も図り、互いに顔なじみとなり意見を出しやすい雰囲気を作られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、全体会議、グループホーム部会を開催している。管理者とリーダーは主任会議に出席している。法人代表者も出席するため意見交換も出来ている。部会では、職員同士意見や改善事項など実践できている	毎月1回、複合施設全体の会議、リーダー会議、グループホーム部会が開かれる。運営に関すること、検討されている内容などの報告があり、ホーム部会でも活発な意見交換をしている。リーダー中心に討議して「決めたことはまず皆でやってみよう、それから評価しよう」と意見を反映させ取り組んでいる。欠席した職員には連絡ノートを用いて周知している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、日々職員とのコミュニケーションをとるように心がけている。必要に応じて、個別面接を行っている。また、随時、施設長への報告・相談を行い、就業環境の整備・改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケア実践者研修への受講者を毎年増やしている。自施設実習時は、全職員で取り組んでいる。修了職員が増え、全体のスキルアップが図れるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市介護保険事業所連絡会への参加や、医療と介護連携研究会等に参加し、顔が見える関係のなかで情報共有や意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅を訪問し、本人や家族からの悩み、不安、今までの生活歴を聞くこと、初期段階には担当のケアマネからの情報を得て入居後の安心へと繋がるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族の思い、要望を聞くようになっている。入居後は、面会時には職員からも挨拶するよう心掛けて信頼関係を築けるに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のご本人、ご家族との面談時に得た情報を元に、希望の支援、必要なサービスを入居時から提供できるように努めている。また、サービス開始時は意思確認を行うようになっている。		
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時には、他利用者の状態を皆さんに話すことで、病気の事、性格など理解してもらうことが出来る。利用者同士の関係にも変化がみられることもある。		
19		○本人を共にえあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な外泊の支援をしている。また、ご家族が来訪された際は記念写真を撮影させて頂いている。職員が様子をお伝えし、ご家族からのご意見や要望を聞くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時に過ごしやすい雰囲気をつくっている。また、週末には外泊をされ家族と過ごされる方もいる。	近所の方や友人の来訪があり、居室やリビングで歓談されており、お茶を出すなど過ごしやすい雰囲気を作っている。定期的に外泊して家族と過ごし、美容院やお墓参りに出かけられる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ささいなトラブルは承知し、感情表出も大切にしている。職員は利用者同士の関係を把握し座席の配置に配慮したり、職員が介入し穏やかに過ごせるよう環境づくりに努めている。		

グループホームあい愛塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の有料老人ホームへの住み替えをされた方もいるため、顔なじみの職員との関係は断ち切らない支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者ごとに担当職員を決めている。個人の思い、暮らしを把握するよう努めている。また職員間で情報を共有し個々の思いに添えるような支援に努めている。	殆どの利用者が思いや意向を表出でき、それぞれの思いを大切に支援している。自分で選んで決められるように職員は「どれにしましょうか？」と声をかけながら、無理強いせず選択できるように働きかけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの若き頃の生活の様子等をお聞きしケアに活かしている。また前任サービスのケアマネから生活の様子を情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録用紙の検討・改変を行い、日々細かに記録できるよう努めている。職員間で情報の共有を行い変化する状態に合わせた対応が出来ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員が利用者を担当している。3～6か月ごとに支援内容のモニタリングを実施するように努めている。	職員一人が一名の利用者を担当し、計画は6ヶ月ごとに見直し、モニタリングは3～6ヶ月ごとを実施している。また、随時、カンファレンスを開き、家族の意向も踏まえて短期目標や計画の見直し、状態の変化などに合わせての検討を行っている。認知症ケア実践者研修を毎年一人ずつ受講し、修了職員が中心となり研修内容を活かした対応や計画を立てるなど、職員のスキルアップも図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護職員のみならず看護師、ケアマネ、主治医が同じ書面に記録できるようになっている。情報の共有ができ身体状態に変化があった場合でもすみやかな対応が可能である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状態の変化に合わせた、個別の食事形態や食事時間の提供をしている。		

グループホームあい愛塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の散歩、スーパーへ出かけている。信州花博覧会に出かけたり、喫茶店や外食に出かける事もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後の主治医は、ご本人ご家族の希望に添っている。地域の医療機関への受診支援も行っている。緊急時にも医療連携が図れるよう体制を整えている。	利用前のかかりつけ医を継続されている方は若干名で家族が受診対応をしている。そのほかの利用者はホーム協力医の往診を受けている。併設の特定施設の看護師が朝・夕の申し送り時に参加して利用者の様子を把握するなど、連携体制がきちんと取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師と医療連携体制を整えている。朝・夕の申し送りに参加し情報の共有をはかる対応を整えている。夜間はオンコール体制を継続して。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院に赴き面会を心がけ、病院関係者より利用者の情報を把握し家族を含め今後の生活、支援について相談を行うように、相互の連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が進んできている中、実際に看取り介護となり家族、主治医、職員のチームでの支援が行われ最後まで施設で過ごされ、本人、家族の思いに沿える支援が実践できた。	今までに看取りの経験が3件ある。ホームとしての「健康管理体制及び重度化対応についての指針」があり、利用開始時に利用者や家族に説明している。状態に合わせてその都度、説明と同意の確認をし、病状については医師・看護師・職員が連携をとりながら家族への連絡や対応をしている。利用者や家族の思いを受けてチームとして看取りの支援ができるように研修を受けてフローチャートも作成している。他施設への住み替えを希望される時も支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成している。定期的に内容の確認や訓練を実践している。。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施。防災に備え非常用食品、ヘルメット等準備されている。	年2回、消防署立会いのもと、利用者・職員全員参加の避難訓練とホーム独自の防災訓練を実施している。複合施設としての防災委員会を中心に、地元の人たちの具体的な協力体制も含めて内容等を検討している。食料品等の備蓄は3日分用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別ケアを目標に、一人ひとりに合わせた会話心がけ、言葉かけに注意し思いや希望を引き出せるように実践している。	ホーム部会で人権や接遇に関する学習をして意識を高めている。利用者の気持ちを大切にしたりさり気ないケアを心がけている。何か苦情があった時は全体で検討し、振り返るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとり生活のスタイルが違うため、過ごし方や洋服選びなど利用者が決定できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のやりたい趣味を行える環境づくりを心がけている。時にはやりかけのまま次の行動に行く事を嫌がる方には最後までやっていただくなど実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時は、自分で選んでいただくようにしている。汚れてしまった時など小まめに着替えを行っている。希望により理美容の機会を作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは職員が担う部分が多くなって来ているが、出来る範囲で参加をして頂いている。おやつ作りでは、時々一緒に行っている。一人ひとり嗜好も異なるので、希望を聞き対応してる。	殆どの利用者が自力で常食を摂られている。介助を要する方も日によってはスプーンで刻み食を摂取できている。献立は食材を見て職員が立てるが、不足の食材の買い出しには利用者も一緒に出掛けている。野菜の処理やおはぎなどのおやつ作りのお手伝いは、できる範囲でやって頂いている。施設の畑で収穫した新鮮な野菜が食卓に並ぶという。誕生日には利用者の好きなメニューを取り入れ、行事食として松花堂弁当、そば、寿司なども提供され楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の水分量、食事量の記録する。利用者の適量が把握出来るため、その方の適量で調整することができる。お茶の時間には、ジュースやコーヒーなど、希望を聞き提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行うように声掛けしている。入れ歯の方には、夕食後はポリドントの使用を促し清潔を保持できるよう支援を行っている。		

グループホームあい愛塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけている。排泄介助の必要な方には、適切な間隔で支援が行えている。排泄用品・排泄支援方法については、随時、情報の共有、評価・検討を行っている。	自立されている利用者が多いが、全員にさりげなく声がかげと誘導をしている。殆どの方がリハビリパンツとパットを併用している。排泄チェック表をつけて支援し、排泄用品についても家族に相談しながら検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールのための服薬をしている入居者が多いが、食事面からは、毎朝の乳製品飲用やバナナ・野菜ジュースなどを提供している。水分摂取量を把握し、適量引水を促したり、体操や散歩等体を動かす機会を続けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴希望の有無を確認したり、朝入浴の準備を一緒に行う時、入る順番の希望など聞くなどその方にあったタイミングで対応するよう努めている。	週2回の入浴を基本としているが、希望があればシャワー浴も含めて対応している。同性介助の希望があり、曜日を決めて対応している。入浴を拒む方は併設施設の大きい風呂に案内し、利用者数名で入浴し、温泉気分を味わって頂いている。併設施設の大きい風呂での入浴が人気で月に数回利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間はソファでウトウトされている方がいたり、夜間はそれぞれのペースで休まれるようになっている。現在は、眠剤を服用される方もいるが夜間は眠れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの状態に合わせて、薬を粉砕したり服薬ゼリーを活用して確実に飲んでいただくように支援している。服薬の変更については、看護師と連携し薬の管理がスムーズに行えるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりができる事が変わってきている。状態に合わせて個別での支援を行っている。時々カラオケを楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	厳冬期や盛夏の間は外出が困難であったが、気候が良い時には、前庭やケアガーデンで花や野菜を育て収穫を楽しんでいる。外気浴や周辺の散歩、買い物に出かけている。定期的に自宅外泊をしている方もいる。	複合施設の敷地は広大で、前庭、ケアガーデン、ゲートボール場などもあり、所々にベンチも置かれ、利用者も散歩や外気浴を楽しまれている。職員が援助し野菜や花を育てたり収穫も楽しんでいる。食材の買い出し等、職員と車で出かけることもある。行事計画は月毎に職員が立て、9月はぶどう狩りに全員で出かける予定となっている。全員で出かける回数は少なくなってきたが、利用者の気分転換につなげられるように計画している。	

グループホームあい愛塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族了解の基に現金を所持し、自ら嗜好品を購入していた方がおられた。買い物時にホームのお金で、支払をして頂く時がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時は、ご家族に電話をして取り次いでいる。ご家族やご近所の方から手紙(葉書)が届くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は畳部屋であり押入れがある。共用スペースに、生花を飾っている。フロアの壁面には日常の写真を掲示したり季節の作品を飾っている。今夏は、ハワイをイメージした空間を設置した。	入口から右手には食堂と畳敷きの小上がりがあり、奥に向かって広々としたホールがある。ホール手前半分にはテーブルとイスがあり思い思いに作品作りをされている。奥半分にはゆったりとしたソファが置かれ大画面のテレビあり、くつろげる場が広く居心地の良さを感じる。ホールを囲むように居室、トイレが配置されている。壁には年間を通しての行事や日常場面の写真が楽しいコメントと共に飾られている。1階にある地域交流スペースにもつながっており、そこでのイベントにも参加しやすく、そこから眺める景色からも季節を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには、いくつかのソファが配置されて自由に過ごせるようになっている。食堂での席の配置は、固定せず皆が気持ちよく過ごせるように対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が好きなポスターや塗り絵、書道の作品を壁に飾っている。お花を摘んでお部屋に飾ることもある。	居室は畳部屋で利用者の状況にあわせてカーペットが敷かれている。エアコン、ベッド、押入、洗面台が備え付けられている。利用者の思いにあわせて自宅で使い慣れた家具等を持ち込まれたりテレビを置いたりしている居室が見られ、また、あまり物は置かずすっきりとした居室もあり、それぞれに自由な居室づくりがなされている。壁にはホームで取り組んだ作品、書道、塗り絵等が飾られ、温かい雰囲気を出している。居室ドアには利用者の顔写真が貼られてわかりやすくなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札をつけ、電気のスイッチには目印をつける等、自分でわかり自分でおこなえる。”自立”を支援、実践している。トイレ内に、わかりやすく壁紙を貼り気持ちよく過ごせるように工夫している。		